

## 事業所における自己評価結果（公表）

公表：令和5年 3月 1日

事業所名： 呉本庄つくし園

		はい	いいえ	工夫している点・課題や改善すべき点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境 体制整備	1	○		・雨天時等、工夫して療育を行っている	・支援のために必要な環境調整をしつつ、子どもさんが活動しやすいよう、配置や導線を工夫していきたい
	2	○		・難しい場合は、補助に入ってください環境がある ・人数確保はできているが工夫していくことは必要かと思う ・法的には適切な人数だが、休みのことを考えるともう少し人数がいた方が良いのではないか？	・活動に応じて、人員が必要な場合は声を掛け合い、事務や相談の職員なども協力していきたい
	3	○		・子どもの特性や実態に合わせて環境等の配慮をしている	
	4	○		・掃除や消毒など毎日行い、衛生を保つよう心がけている ・消毒などをこまめに行っている ・空間はやや狭いが工夫している ・子どもが心地よく過ごせる空間作りを心がけている	・気になることがあるときには、声を出し合い、共通認識を持つことで、職員全体で環境整備に努めていきたい
業務改善	5	○			
	6	○		・事業所評価は毎年行っており、保護者の方からいただいた意見などを園内で検討し、業務改善に向けて取り組んでいる	
	7	○		・保護者の意向を受けて、園内で検討し、改善に向けて取り組むようにしている	・例年通り、今年も保護者の方への資料配付、ホームページでの公開を行っていく
適切な 支援の 提供	8	○		・月1回程度行っている ・園内・外へ研修の機会を設けている ・外部講師による研修の実施	
	9	○		・保護者の意向と子どもの実態を合わせて、支援計画を作成している	・今後も保護者の方の意向を受けると共に、園内で会議を行い、対象児に対して多角的に検討して作成していく
	10	○		・発達検査を毎年行っている ・行動尺度を測るアセスメントを導入予定	・4月～5月にかけて、発達検査を全園児に実施している ・適応行動の状況を図るための標準化されたアセスメントツールを少しずつ取り入れている
	11	○		・地域支援については、項目としてはあるが、保護者の方からの要望があまりない ・幼児なので地域参加が難しい面もあるかもしれない ・支援計画会議を行い、発達支援、家族支援、地域支援の内容について検討し、家庭で取り組めることも計画に記入するようにしている	・今後も変わらず、子どもさん、保護者の方のニーズを受け止め、ここに合わせた個別支援計画を作成していく
	12	○		・支援内容を確認しながら支援を行っている	・個別支援計画を全員で把握し、共通認識をもって、誰が関わっても同じ支援ができるようにしていく。
	13	○			・クラスで話し合い、子どもさんの状態に合わせた内容を工夫している
14	○			・季節、育てたい力、子どもさんたちの興味などをいろいろ加味し、考えていく	

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点・課題や改善すべき点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
適切な支援の提供	15	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる個別支援計画を作成している	○		・子どもさんの状態を考え、集団への入り方や支援方法を考えていく
	16	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○	・各クラスで細かく打ち合わせできており職員間で把握できている	・その日の流れや役割、注意点などを共通認識として持っているようにしている
	17	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○	・子どもたちが降園した後に職員で振り返り、話をしている ・難しい場合はメモで伝えるようにしている	・そのつど、その日の出来事や支援についての話し合いをすることで、適切な支援、より良い支援をさらにめざしていく
	18	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		
	19	定期的にモニタリングを行い、個別支援計画の見直しの必要性を判断している	○		
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		
	21	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○	・気づきがあれば、すぐに連携が取れている ・必要に応じて行っている ・関係機関と情報共有し、連携して支援している	
	22	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	○	・ケアが必要な子ども、安心して通園できるよう努力できている。保護者との信頼関係も構築できている ・必要に応じて対応している	・必要に応じて、関係機関との連携を行っている 今後も引き続き、必要に応じて行っていく
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	○	・ケアが必要な子ども、安心して通園できるよう努力できている。保護者との信頼関係も構築できている ・必要に応じて対応している ・主治医や医療機関、関係機関と連携体制を整えて支援している	・必要に応じて、保護者と検討し、主治医や医療機関との連携をとっている 今後も引き続き、必要に応じて行っていく
	24	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○	・移行する際には、支援内容等の情報共有をしている	・移行支援が必要な時には、子どもさんの情報提供のために書類を作り、情報共有することで相互理解を深めるようにしていく
	25	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○	・移行する際には、支援内容等の情報共有をしている ・学校との共有はあるが、卒園後、放課後デイを利用する子が多いので、放課後デイとの共有も必要になってくると思われる	・教育委員会や就学先の学校への情報提供のための書類を作り、子どもさんの状態や支援内容について相互理解を図るようにしている
	26	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		・ほかの事業所や専門機関や外部講師によるコンサルテーションなどと連携し、助言や研修を受けている
	27	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	○		・近くの保育園との交流保育をしている 遊びを通して交流がはかれるよう工夫していく
	28	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	○		
	29	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○	・個別指導時に伝えたり、毎日のおたよりで園での様子を書いて伝えるなどして共有している	
	30	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	○	・個別時などに話をして取り組んでいる ・コロナ渦のため、実施できず ・保護者から相談や困りごとがあれば、どう取り組んでいかや支援方法を一緒に考え支援しているが、ペアレント・トレーニングはしていない ・プログラムとしては行っていないが、保護者が家庭でも取り組めることを一緒に考えている ・保護者研修を実施	・家族支援について、ペアトレは行っていないが、保護者研修会を行うなど、対応力の向上に向けた取り組みを行っている

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点・課題や改善すべき点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	31 運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○			・年度初めの療育説明会の中で、説明を行っている
	32 児童発達支援ガイドラインの「個別支援支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「個別支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から個別支援計画の同意を得ている	○			・懇談の中で対面での説明を行い、保護者の方にも共通認識を持ってもらい、同意を得ている
	33 定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○			・必要に応じてお便りや電話、対面で相談を受け、そのつど一緒に対応を考えたり、助言をしている
	34 父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○		・園で開催できていないが、WEBで保護者の方が中心となり行っている ・以前より回数が減っているため、もう少し回数が増えて行ければ保護者同士の交流も増えていくと思う ・保護者会開催の相談やおもちゃの貸し出しなどでサポートしている	・園の場所を提供することは難しい状況であったが、相談を受けたり、おもちゃなど道具の貸し出しを行っていた
	35 子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○		・相談等について、その日のうちに対応するよう心がけている	・そのつどおたより、電話、対面での話などを行うことで、迅速に対応している
	36 定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		・毎月の園だよりやお知らせなどで情報を発信している	・園だよりを毎月発行し、その月の行事や子どもたちの様子などを載せて、園での様子が分かるようにしている
	37 個人情報の取扱いに十分注意している	○		・園児の住所など職員全体に配る必要はないと思う	
	38 障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○			・お知らせは紙面で配布するようにし、必要な情報なども書いて伝えるようにしている
	39 事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○		・コロナのため、実施できていない ・以前は行っていた ・園内のみで行っている	・例年は夏祭りを地域の方も招いて行っていたが、ここ数年は園内のみで行っている
非常時等の対応	40 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに発生を想定した訓練を実施している	○		・マニュアルについては、いつでも見ていただけるように玄関に置いている ・避難訓練の様子を園だより等でお知らせしている	・各種マニュアルを作成しており、いつでもだれでも見られるように掲示している ・必要に応じて見直しを行い、対応できるように体制作りをしている
	41 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		・月に1回、火災・災害・地震等、いろいろな形で避難訓練を実施している	・毎月実施しており、その時々で、火災・地震・土砂災害などを想定して行っている ・消防への通報訓練も実施している
	42 事前に服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	○		・家庭調査票等に記入してもらい、確認している	
	43 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		・指示書を提出してもらい、対応している	
	44 ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		・その日、終礼等で情報共有できている、改善策も考える ・ヒヤリハット事例が起こった際には、終礼等で内容の確認、報告書を作成し、全職員で再発防止に努めている	・気になることに対しては、そのつど書類を作り、全体に回覧することで、情報を共有し、気を付けるようにしている
	45 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		・全職員で研修を実施している	・毎月虐待防止委員会を開き、不適切な対応はないか園全体でチェックし、適切な対応を心掛けている
	46 どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、個別支援計画に記載している	○		・必要な場合は、個別支援計画に記載し、別紙にも記入するようにしている。 ・どのような場合に行うかについて、保護者に説明している	・必要な場合は、保護者への説明し、同意を得たうえで行うようにしている

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。

事業所における自己評価結果（公表）

公表：令和5年3月1日

事業所名：児童デイサービスつくしんぼ

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点・課題や改善すべき点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		人数に対してのスペースは確保されている。物理的構造化により、狭いと感じる所もあるが、動線がとれるように工夫をしている。	活動内容によって、各スペースの大きさを工夫していく。
	2	職員の配置数は適切である	○		丁寧な支援ができる職員体制をとっている。	基準に沿った職員体制がとれるように努めていく。
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	○		子ども達が自発的に活動できるよう、生活空間が構造化されている。市民センター内ということもあり、バリアフリー化がなされている。掲示物等、子どもたちにとって刺激となるようなものをできるだけ減らすようにしている。	今後も、子ども達が「楽しい」「やりたい」と感じられるような活動内容を考え、それ合わせて、スペースの広さやエリアを工夫していく。どこに何を片付けるのが等、子ども達が自分で分かってできるように視覚的明示化をしていく。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○		毎日の清掃に加え、感染症対策として、遊具や課題等への消毒もその都度行っている。	今後も感染症対策、衛生管理を徹底していく。
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に広く職員が参画している	○		職員全員で具体的な取り組みを考え、結果について共有し、必要があれば更に改善することを繰り返し行っている。	今後も、話し合いの機会を持ち、意見を出し合えるようにしていく。
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		事業所評価や意見をもとに話し合いを行い、業務改善につなげている。	今後も、意見を実直に受け止め、職員で協議し、対応についても検討していく。
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報ホームページ等で公開している	○		HPにて公開するとともに、事業所内にも掲示している。	引き続き、掲示の仕方を工夫し、情報を分かりやすく発信していく。
適切な 支援の 提供	8	職員の資質の向上を行うために研修の機会を確保している	○		つくし園全体で行う研修と事業所での研修を実施している。療育に関するだけでなく、職員資質に関する外部研修にも、オンライン等で参加。	内部・外部研修に職員自らが積極的に参加し、専門性を高めていく。
	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、個別支援計画を作成している	○		保護者のニーズを聞き、子どもの実態やニーズを多角的な視点から、情報収集-分析-プランにつながるようにしている。	今後も、保護者の方としっかりと話ができる時間をとり、保護者や子どものニーズをくみ取れる力や子どもの発達状況や特性を理解し、行動の分析ができるようスキルアップに努めていく。
	10	子どもの適応行動の状況を図るために標準化されたアセスメントツールを使用している	○		個々の実態を把握するため、保護者からの聞き取り、独自のアセスメントシートにより、利用開始時にアセスメントを行っている。ニーズや変化があった時に、再アセスメントを行っている。フォーマルアセスメントは、他機関で行った検査結果を参考にしている。	
	11	個別支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○		本人支援については、アセスメントに基づき、具体的な目標設定を行っている。また、家庭でも取り組める視点を盛り込んでいる。	各支援ごとに分けた支援計画書にしていけないが、ガイドラインにある各支援の項目を意識し、支援目標に組み込んでいる。ニーズや実態に応じて、家庭や地域の中で取り組める内容を支援計画に取り入れていけるよう、職員で協議を行っていきたい。
	12	個別支援計画に沿った支援が行われている	○		職員の共通理解のもと行われている。	
	13	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		職員で協議の上、作成している。	年間計画、月案、日々のプログラムをわかりやすく表示し、職員で共有する。
	14	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		造形活動等、季節に応じた活動を工夫している。遊具やおもちゃ等を定期的に入れ替えている。一人一人に合った課題や遊びが提供できるよう工夫している。	今後も、子どもの実態に応じた遊具設定や活動の工夫を行っていく。
	15	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせることで個別支援計画を作成している	○		ゲームなどの遊びを通して、小集団での活動を行っている。	子どもの発達状況に合わせ、やりとりの経験や集団活動の機会を増やしていく。
	16	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		毎朝、利用児の目標や支援のポイントを確認し、職員の役割分担を決めている。同じ職員がいつも同じ役割にならないようにしている。	
	17	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		療育終了後、記録を行うとともに、疑問に感じたことや気づいた点についてもすぐに報告するようにしている。	全体の場合だけでなく、気付いた時に声を出していく。
18	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		療育終了後、気づいたこと、保護者からの相談内容、次回行いたい課題の内容等記録している。関係機関とのやり取りも記録している。	その場になかった職員にも確実に情報が届くよう、メモを残し共有する。	

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点・課題や改善すべき点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
	19 定期的にモニタリングを行い、個別支援計画の見直しの必要性を判断している	○		6ヶ月毎に保護者のニーズを聞き取り、見直している。保護者の相談・要望があった時は、随時対応をしている。	
関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	20 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		担当者会議に参加後、全体で情報を共有している。	その場になかった職員にも確実に情報が届くよう、メモを残し共有する。
	21 母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○		必要に応じて関係機関と連携をしている。	
	22 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている				現在、対象となる子どもがいないため行っていないが、必要時には連携し、対応していく。
	23 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている				現在、対象となる子どもがいないため行っていないが、必要時には連携し、対応していく。
	24 移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		保護者・利用児の在籍している園からの要請があれば、必要に応じて保護者の許可のもと情報共有等を行っている。	今後も随時対応していくとともに、相談支援専門員へ働きかけ、関係機関で方向性の確認の機会を持てるようにしていく。
	25 移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		必要に応じて保護者の許可のもと情報共有等を行っている。	
	26 他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		専門機関と連携し、助言や研修を受けている。	他のセンターや事業所とのつながりを広げ、助言や指導を受ける機会をもつよう意識する。
	27 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある		○	地域の幼稚園・保育所との並行通園をしている利用児が多く、交流する機会は基本的に設けていない。	
	28 (自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	○		担当者が参加している。	色々な職員が参加できるように考えていく。
	29 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		日々の療育の中で話をする機会を持つようになっている。	話をした内容などを記録に残し、職員間でも共有できるようにする。
30 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている		○	ペアレント・トレーニングの形はとっていないが、子どもの特性や見立て、家庭での対応について伝えるようになっている。保護者研修会を行い、発達や特性の理解を深めたり、行動への対応について学ぶ機会を設けている。	今後も、色々なことを伝えられる機会をもっていきたい。	
保護者への説明責任等	31 運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		契約時に、文書で説明を行っている。改訂時には、文書と掲示等により通知している。	
	32 児童発達支援ガイドラインの「個別支援支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「個別支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から個別支援計画の同意を得ている	○		個別支援計画を見せながら、説明をしている。	専門用語を使わず、より分かりやすい伝え方ができるように努める。
	33 定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		保護者の方に積極的に話しかける等、話をしやすい雰囲気を作るよう心がけている。利用日以外でも相談対応を行っている。助言をもとに、家庭でも実践して下さっている。	適切な助言や支援が出来るように職員のスキルの向上を図る。
	34 父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○		話題カードを作り、保護者同士の会話がすすむよう工夫をした。	今後も、保護者同士のつながりが持てるような機会を提供していきたい。
	35 子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○		面談や電話で、相談への対応を行っている。	
	36 定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		日程や連絡事項についての掲示を行っている。	情報が確実に伝わるように工夫していく。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点・課題や改善すべき点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	37	個人情報の取扱いに十分注意している	○		守秘義務についても職員研修等で周知している。資料等は鍵付きの棚に保管している。	
	38	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		コミュニケーションブックや視覚情報を活用したコミュニケーションを図るようにしている。	引き続き、相手の方に配慮した支援を行う。
	39	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○		市民センターで開催される催しに参加し、子どもから大人まで楽しんでもらえるような活動を提供した。	今後も、市民センター内での催しに参加する。
非常時等の対応	40	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに発生を想定した訓練を実施している	○		マニュアルは掲示しており、年2回市民センター全体での避難訓練に参加している。災害時の職員の役割分担も決めている。怪我等が発生した際の連絡体制等は事務所に掲示している。	
	41	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		市民センター全体での訓練に参加している。	避難経路、役割分担等、事業所内で定期的に確認する機会を持つ。
	42	事前に服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	○		契約時に確認。一覧にまとめ、職員全員で共有している。	状況や必要な対応を定期的に確認する。
	43	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		アレルギーのある子どもには指示書を提出してもらっている。アレルギー表を作成して、誤飲食のないよう気をつけている。おやつ原材料等を保護者に確認の上、提供している。	
	44	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		ヒヤリハット事例が起こった時には、すぐに報告書を作成し、職員間で共有し、再発防止を図っている。	
	45	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		年1回、園全体で、全職員を対象に研修を行っている。	
	46	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、個別支援計画に記載している	○		身体拘束についての共有意識は、職員研修で行っている。危険が伴う場面では、瞬間的に動きを止めることはあり、状況を保護者に報告している。	

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。